

松崎 晃治

小浜市長

Kouji Matsuzaki

まつざき・こうじ 昭和33年1月生まれ。
鳴門教育大学大学院学校教育研究科修了。
昭和56年福井県教員採用。平成7年4月県
議初当選、副議長、議長を歴任。平成20年
8月小浜市長に初当選。現在2期目。

若干37歳で教員から県議に転身。越前と若狭の経済格差を目の当たりにし愕然とした松崎氏は「何とかしなければ」、この一念で市長に就いてからもふるさと小浜と市民のために全力で突き進み、振り返ると政治家歴20年。

小浜市は、昨年4月に海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群「御食国若狭と鯖街道」が日本遺産第1号に認定され、また7月にはミラノ国際博覧会に出展するなど国内外に小浜の魅力を発信し、念願の舞鶴若狭自動車道も全線開通した。そして今春、市の中心部に旧旭座の移転活用を核とした「まちの駅」がオープンする。まち歩き観光の拠点として、また市民の交流の

場として活用が期待される。さらに、長年の懸案である北陸新幹線の敦賀以西ルート決定も正念場を迎え、小浜市はさらなる飛躍の一步を踏み出す重要な時期にある。小浜市の将来を託され市長2期、8年目の最終年度を迎える松崎晃治氏に政治家歴20年を振り返り、小浜市への思い、まちづくりの信念などを率直に述べてもらった。

北陸新幹線「小浜ルート」早期実現を国、県に強く働きかけていく

北陸新幹線の敦賀〜大阪間についてJR西日本は小浜〜京都〜大阪ルートが最有力と発表があったが、永年の誘致運動が実現に向けて着実に進展している今の感想は「松崎晃治小浜市長 昭和48年に整備計画で小浜ルートが唯一の正式ルートと決定された。県議初当選から20年、その実現を政治課題として取り組んできた。与党検討委員会では5月中にルートを絞り込むとしていて、今が小浜ルート実現に向けて行動する正念場であり、嶺南6市町が一体となって早期実現を国、県に強く働きかけていく。県会議長当時、自民党系の

京都府議と大阪府議の有志にお会いし、大飯原発の理解を深めて頂くと同時に、新幹線小浜ルートの誘致に向けた理解を求めると働きかけを続けてきた。紆余曲折もあったが、金沢〜敦賀間が正式に決まった時点で小浜ルートを「ドーン」とぶち上げ、西川知事をはじめ県議各位、小浜商工会議所上野会頭など関係各所から多大な支援、協力を頂き今に至った。京都・大阪との連携を作る事ができた要因には、西田昌司(58歳)参議院議員との出会い。西田氏が京都府議の当時、私も県議で共に自民党の全国青年議員連盟の会長、副会長